

平成27年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 平成27年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、全日制課程の35校38学科、定時制課程の1校1学科、特色選抜実施校は、全日制課程の13校16学科であった。
推薦選抜、特色選抜合わせて6,415人が出願し、3,407人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は7.1%であった。

※ 以下 () は前年度

<推薦選抜>

1 出願状況			
募集枠	2,467人		
出願者数	2,704人	出願倍率	1.10倍 (1.05倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	2,703人		
入学許可予定者数	2,311人	合格率	85.5% (86.0%)

<特色選抜>

1 出願状況			
募集枠	1,096人		
出願者数	3,711人	出願倍率	3.39倍 (3.43倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	3,709人		
入学許可予定者数	1,096人	合格率	29.5% (29.1%)

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況			
出願者数	8,051人 (8,321人)		
確定出願者数	8,009人 (8,243人)		
確定出願倍率	全日制 1.12倍 (1.13倍)	定時制	0.85倍 (0.83倍)
	全・定合わせて1.11倍 (1.12倍)		
2 出願変更状況			
出願変更者数	572人	このうち	42人は出願辞退者
出願変更率	7.1% (7.5%)		
	(1) 学科別出願変更率では商業学科が13.4%と最も高かった。(前年度は家庭学科の11.8%)		
	(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 313人 出願変更率 6.4% (7.1%)		
3 受検状況			
受検者数	7,988人	受検倍率	1.11倍 (1.11倍)
全日制	7,765人	1.12倍 (1.13倍)	定時制 223人 0.81倍 (0.82倍)
4 入学許可予定者			
(1) 学力検査による入学許可予定者数	7,046人	合格率	88.2% (88.3%)
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科	13校14科		(10校11科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・科および募集定員			
全日制	8校9科86人	定時制	5校5科61人
	全・定合わせて13校14科147人		
2 出願状況	出願者数 143人	出願倍率	0.97倍 (0.97倍)
3 受検状況	受検者数 140人	受検倍率	0.95倍 (0.93倍)
4 入学許可予定者	入学許可予定者数 100人	合格率	71.4% (66.1%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数	10,553人
2 実入学者数	10,550人
3 定員充足率	99.5% (99.5%)

平成27年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

平成27年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	1
(1)	推薦選抜、特色選抜の結果	1
(2)	一般選抜の結果	2
(3)	入学者選抜の結果	2
2	学科別の受検者数、入学許可予定者数等について	3
3	学力検査における出願変更者数について	4
4	学力検査における面接・作文・実技検査について	4
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	5
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	6
2	配点等	6
3	検査成績	6
	【各教科の分析】	
	国 語	7
	数 学	9
	社 会	11
	理 科	13
	英 語	15

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成27年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程の35校38学科（普通科19、専門学科12、総合学科7）、定時制課程の1校1学科（普通科1）であった。特色選抜実施校は、13校16学科（普通科13、専門学科3）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月5日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・中等教育学校107校中99校（昨年度106校中100校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は32校（昨年度47校）であった。全日制の出願者数は、普通科で1,068人（昨年度1,149人）、農業学科で235人（昨年度229人）、工業学科で353人（昨年度339人）、商業学科で382人（昨年度338人）、家庭学科で106人（昨年度113人）、体育学科で58人（昨年度53人）、美術学科で43人（昨年度48人）、総合学科で443人（昨年度429人）であった。定時制は普通科の16人となった。この結果、出願者数合計は、2,704人（昨年度2,698人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.03倍（昨年度1.04倍）、専門学科で1.23倍（昨年度1.14倍）、総合学科では0.94倍（昨年度0.91倍）定時制の普通科は、2.67倍（昨年度0倍）となり、実施学科全体では1.10倍（昨年度1.05倍）であった。

この結果、2,311人が入学許可予定者となり、合格率は85.5%（昨年度86.0%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・中等教育学校107校中104校（昨年度106校中102校）、県外の中学校は17校（昨年度21校）であった。出願者数は、普通科で3,568人（昨年度3,407人）、理数学科で107人（昨年度83人）、音楽学科で36人（昨年度27人）であった。この結果、出願者数合計は3,711人（昨年度3,517人）となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.44倍（昨年度3.53倍）、専門学科では2.38倍（昨年度1.83倍）となり、実施学科全体では3.39倍（昨年度3.43倍）であった。この結果、1,096人が入学許可予定者となり、合格率は29.5%（昨年度29.1%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,407人が入学許可予定者となり、合格率は53.1%（昨年度53.8%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	入学許可 予定者数C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推 薦 選 抜	普通科	3,600	15~30	1,038	1,084	1,084	1.04	983	90.7	
	専 門 学 科	農業	400	50	200	235	235	1.18	200	85.1
		工業	760	50	380	353	353	0.93	324	91.8
		商業	520	50	260	382	381	1.47	260	68.2
		家庭	160	35~40	60	106	106	1.77	60	56.6
		体育	40	75	30	58	58	1.93	30	51.7
		美術	40	75	30	43	43	1.43	30	69.8
	小計	1,920		960	1,177	1,176	1.23	904	76.9	
総合学科	1,200	※30~40	469	443	443	0.94	424	95.7		
合計	6,720		2,467	2,704	2,703	1.10	2,311	85.5		
特 色 選 抜	普通科	3,520	25~30	1,036	3,568	3,566	3.44	1,036	29.1	
	専 門	理数	80	50	40	107	107	2.68	40	37.4
		音楽	40	50	20	36	36	1.80	20	55.6
	小計	120		60	143	143	2.38	60	42.0	
合計	3,640		1,096	3,711	3,709	3.39	1,096	29.5		
総 合 計	10,360		3,563	6,415	6,412	1.80	3,407	53.1		

※信楽高校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

(2) 一般選抜の結果

3月10日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,193人に対し、確定出願者数は8,009人であり、確定出願倍率は1.11倍であった。この結果、7,046人が入学許可予定者となり、合格率は88.2%であった。

3月23日に実施した二次選抜は、二次選抜定員147人に対し、受検者数は140人であった。この結果、100人が入学許可予定者となり、合格率は71.4%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成27年度	平成26年度
学力検査	学力検査定員 A		7,193	7,377
	出願者数		8,051	8,321
	確定出願者数 (倍率)		8,009 (1.11)	8,243 (1.12)
	受検者数 B (倍率)		7,988 (1.11)	8,218 (1.11)
	不合格者数		942	962
	入学許可予定者数 C		7,046	7,256
	合格率 C/B (%)		88.2	88.3
二次選抜	二次選抜定員 A-C		147	121
	出願者数		143	117
	受検者数 D (倍率)		140 (0.95)	112 (0.93)
	不合格者数		40	38
	入学許可予定者数 E		100	74
	合格率 E/D (%)		71.4	66.1
入学許可予定者数合計 C+E			7,146	7,330

(3) 入学者選抜の結果

3月17日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,453人であり、その内、推薦選抜による者は2,311人、特色選抜による者は1,096人、一般選抜による入学許可予定者数は7,046人であった。また、3月25日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は100人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,553人となった。そのうち、全日制では募集定員10,320人に対して入学許可予定者数10,298人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,550人で、募集定員の99.5%（昨年度99.5%）となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成27年度			平成26年度
			全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数					14,593	14,690
募集定員 A			10,320	280	10,600	10,720
推薦選抜入学許可予定者数			2,305	6	2,311	2,319
特色選抜入学許可予定者数			1,096	-	1,096	1,024
一般選抜入学許可予定者数			6,833	213	7,046	7,256
二次選抜入学許可予定者数			64	36	100	74
総計	入学許可予定者総数		10,298	255	10,553	10,673
	実入学者数 B				10,550	10,663
	定員充足率 B/A (%)				99.5	99.5

※県内中学校卒業予定者数は平成27年3月中学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、総合学科の2学科（昨年度4学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合	
募集定員	A	10,600	7,240	400	840	520	160	80	40	40	40	1,240	
推薦 選 抜	募集枠（人数）	2,467	1,038	200	380	260	60	---	30	---	30	469	
	受検者数 B	2,703	1,084	235	353	381	106	---	58	---	43	443	
	入学許可予定者数 C	2,311	983	200	324	260	60	---	30	---	30	424	
	合格率 C/B(%)	85.5	90.7	85.1	91.8	68.2	56.6	---	51.7	---	69.8	95.7	
特色 選 抜	募集枠（人数）	1,096	1,036	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	受検者数 D	3,709	3,566	---	---	---	---	107	---	36	---	---	
	入学許可予定者数 E	1,096	1,036	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	合格率 E/D(%)	29.5	29.1	---	---	---	---	37.4	---	55.6	---	---	
一 般 選 抜	学 力 検 査	学力検査定員 A-(C+E)	7,193	5,221	200	516	260	100	40	10	20	10	816
		確定出願者数	8,009	*4,889	232	551	304	117	**	**	21	**	829
		受検者数 F	7,988	*4,878	231	544	304	117	**	**	20	**	829
		入学許可予定者数 G	7,046	5,140	200	501	260	100	40	10	20	10	765
		合格率 G/F(%)	88.2	***	86.6	92.1	85.5	85.5	***	***	100	***	92.3
	二 次 選 抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	147	81	---	15	---	---	---	---	---	---	51
		出願者数	143	67	---	35	---	---	---	---	---	---	41
		受検者数 H	140	65	---	34	---	---	---	---	---	---	41
		入学許可予定者数 I	100	56	---	15	---	---	---	---	---	---	29
		合格率 I/H(%)	71.4	86.2	---	44.1	---	---	---	---	---	---	70.7
総 計	入学許可予定者	10,553	7,215	400	840	520	160	80	40	40	40	1,218	
	実入学者数 J	10,550	7,213	400	840	520	160	80	40	40	40	1,217	
	過不足 J-A	-50	-27	0	0	0	0	0	0	0	0	-23	
	定員充足率(%)	99.5	99.6	100	100	100	100	100	100	100	100	98.1	
前年度定員充足率(%)		99.5	99.9	100	98.3	100	100	100	100	77.5	100	97.7	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一 般 選 抜	学 力 検 査	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	10	141	10
		確定出願者数	613		287		166	
		受検者数 D	613		287		165	
		入学許可予定者数 E	420	40	224	10	141	10

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,051人に対し、出願変更者数は572人(昨年度620人)、出願変更率は7.1%(昨年度7.5%)となり、確定出願者数は8,009人であった。

各学科別の出願変更率は、商業学科の13.4%が最も高く(昨年度の最高は家庭学科が11.8%)、次に、農業学科の11.9%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出願 者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,436	4,899	313	6.4	4,889	369	7.1
農業		200	235	28	11.9	232	30	10.2
工業		516	546	59	10.8	551	31	6.3
商業		260	306	41	13.4	304	24	8.1
家庭		100	126	10	7.9	117	18	11.8
音楽		20	21	0	0.0	21	1	8.3
総合		816	828	45	5.4	829	62	7.1
学校 出 願	普通・理数	460	622	29	4.7	613	48	7.9
	普通・体育	234	310	30	9.7	287	20	7.4
	普通・美術	151	158	17	10.8	166	17	10.1
合計		7,193	8,051	572	7.1	8,009	620	7.5

*普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全日制の課程では、愛知高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の3校7科であった。定時制の課程では、昨年度と同様で、大津清陵高等学校の昼間、夜間が実施した。

また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程では、昨年度と同様で甲南高等学校のみであった。

実技検査を実施した学校は、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の2校2科であり、昨年度と同様であった。

なお、作文については実施校はなかった。

Ⅱ 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し32人（昨年31人）が入学許可予定者となり、0.80倍（昨年度0.78倍）の倍率となった。二次選抜では、2人が入学許可予定者となり、合計34人（昨年度32人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、153人の出願者（昨年度151人）に対して、153人（昨年度151人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、46人（昨年度42人）が入学許可予定者となり、合計199人（昨年度193人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計		
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A	
平成 27 年度	単位 制	転 編 入	40	34	32	0.80	0	2	2	34	-6
		通 信 制	320	153	153	0.48	0	46	46	199	-121
平成 26 年度	単位 制	転 編 入	40	31	31	0.78	0	1	1	32	-8
		通 信 制	320	151	151	0.47	0	42	42	193	-127

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や記述式の解答を多くするなどの工夫を凝らした。そのため、受検生がじっくり考えることができるように各検査時間を40分から50分に延長するとともに、問題用紙をA3サイズ2枚からA4サイズ8ページ建て（A3二枚重ね・両面刷り・二つ折り）に、解答用紙をA4サイズからA3サイズ・横置き・片面刷り・二つ折り（内刷り）に変更した。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して多面的、多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えや気持ちを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語49.2点、数学43.5点、社会49.3点、理科53.7点、英語48.8点であった。

平成27年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「複数の資料を使って情報を得たり、自己の思考を深めたりする力を見る問題となっており、様々な情報が溢れる現代社会を生き抜かねばならない若い世代に適した課題である。」
「複数の資料を読んで、それらをまとめた上で考えて書く内容となっており、単なる文章の読み取りに終わっていない大変よく考えられた問題である。」などの意見があった。

設問については、「工夫が凝らされ、国語の力をさまざまな角度からはかることができるよい問題であった。」
「本文の内容を理解し自分の言葉に置き換えて解答を作らなければならないという点で国語の力を問われるものであった。」
「中学校の学習を終え、これから高校の学習を行う上で、基礎的な国語の力を確認するのによい問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題や、文章を読み大まかな内容を理解できるかどうかをみる問題は、正答率が高かった。

複数の文章から読み取った情報を説明する問題、根拠を明確にして自分の考えを適切にまとめる問題については、正答率が低かった。文章から読み取った内容について、自分の考えを明確にし、表現する力を育成することが望まれる。今後は身につけた基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自分の考えや判断をまとめて発表するなどの言語活動をより一層充実させ、論理的に思考する力、豊かに想像する力、適切に説明する力を育成することが望まれる。

□は、本の一部と図鑑の一部を素材にし、内容を読み取り、構成の特徴や効果を問う問題であった。論理にしたがって、内容を読み取っていく問題は正答率が高く、文章の内容をおおまかにとらえる力はあるといえる。しかし、与えられた条件にしたがって説明する問題については、正答率が低かった。設定された字数で説明する力や、構成の違う複数の文章から必要な情報を読み取りまとめる力の育成が求められる。

□は、現代文と古典を融合し、文章の内容を読み取るとともに、自分の考えをまとめる力を求めている。現代文と照らし合わせ、古文の内容を読み取っていく基礎的な力を問う問題は正答率が高く、古語に対する基礎的な事項についてはおおむね理解できているといえる。一方、文章の要旨を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを具体的に説明する力を問う問題では、正答率は低かった。自分の意見や感想を述べ合う活動の中で、与えられた条件を考えながら表現する活動の一層の充実が望まれる。

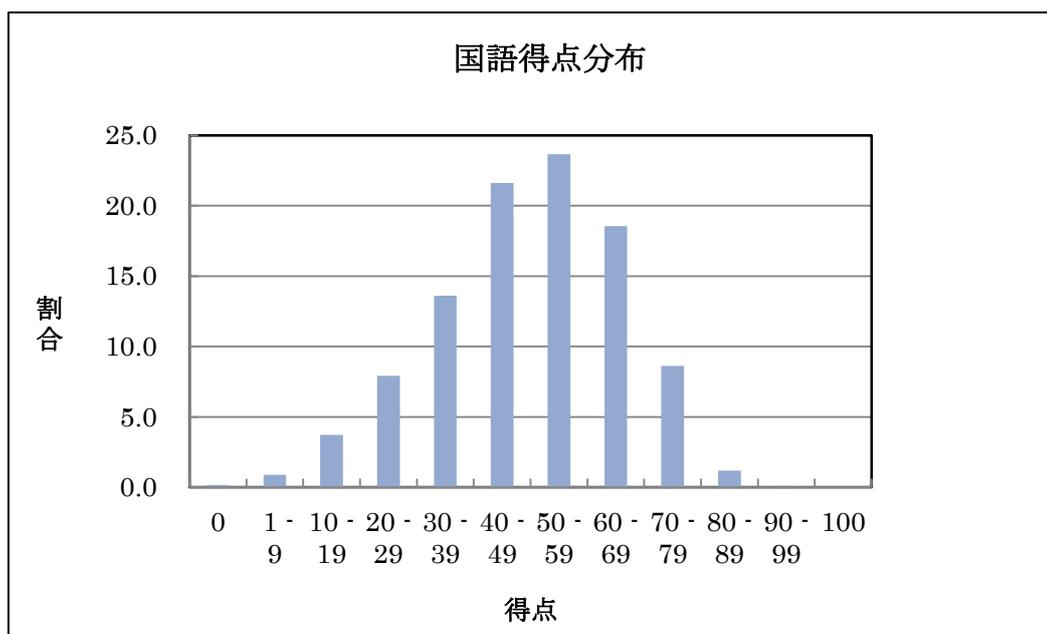
□は、漢字の問題については、正答率が高く、基礎・基本的事項については身につけている。辞書を活用し、語句の意味をまとめるという実際の学習過程を想定した問題は、正答率が低かった。敬語の誤りを指摘する問題も、正答率が低かった。敬語を文脈のなかで適切に使う力の育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)	
一	1	50.0	
	2	73.7	
	3	69.6	
	4	42.7	
	5	5.1	
	6	2.3	
二	1	17.8	
	2	e	74.2
		f	59.8
	3	0.3	
	4	15.2	

問題区分		正答率 (%)	
三	1	①	32.6
		②	60.9
		③	94.4
		④	65.1
		⑤	75.7
	2	①	86.5
		②	92.5
		③	96.6
		④	91.6
		⑤	96.8
3		39.1	
4	20.6		
	12.0		

年 度	平均点	標準偏差
平 27(100点満点)	49.2	16.4



平成27年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「検査時間が50分となり、論理的思考力や表現力を問う問題など工夫が見られた。」「数学的な理解に加えて『言葉による説明』によって表現力を問う問題が出題された。」「言語活動重視の出題が具現化された。」などの意見があった。

各設問については、「データ分析に関する基本的事項を確認でき、数学を利用する面白さにふれる問題である。」「身近な生活の中から反比例の関係を導かせるところが面白い。」「関数のグラフと確率を組合せ、理由を数学的に説明させることで表現する力をみる問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。正答率が低い「ペダルを1回転させたときの自転車の進む距離について説明する問題」や「太郎さんと花子さんのどちらが勝ちやすいかを説明する問題」については、2つの数量の関係や不確定な事象の起こりやすさを説明する力が十分身についておらず、今後は、課題を解決することを通して論理的に考察したり、数学的な表現を用いて理由を説明したりする活動を取り入れながら、断片的な理解や知識の習得にとどまることなく、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

①は、数と式の計算、方程式の問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。半球と等しい体積の円錐の高さを求める問題では、正答率が低かった。与えられた条件をもとに、図形の性質を活用して、考察し説明する力の育成が望まれる。

②は、変速機付きの自転車で、後輪のギアの選び方によって進む距離が異なることなどについて、与えられた情報をもとに、数学的に処理する力や考察し表現する力をみる内容であった。後輪のギアの回転数と歯数が反比例することを根拠としてギアの数字が小さくなるほど、自転車の進む距離が小さくなる問題については、正答率が低かった。数学的な表現を用いて説明する力や、見通しをもって数理的に考察し表現する力の育成が求められる。

③は、正方形を回転移動させてできた図形をもとに、三平方の定理や三角形の相似などを用いて、平面図形の性質について、考察し表現する力や数学的に処理する力をみる内容であったが、作図の問題や正方形が通過した部分の面積を求める問題は、正答率が低かった。作図に三平方の定理を活用したり、図形をよく観察して面積の求め方を工夫したりするなど、数理的に考察する力の育成が望まれる。

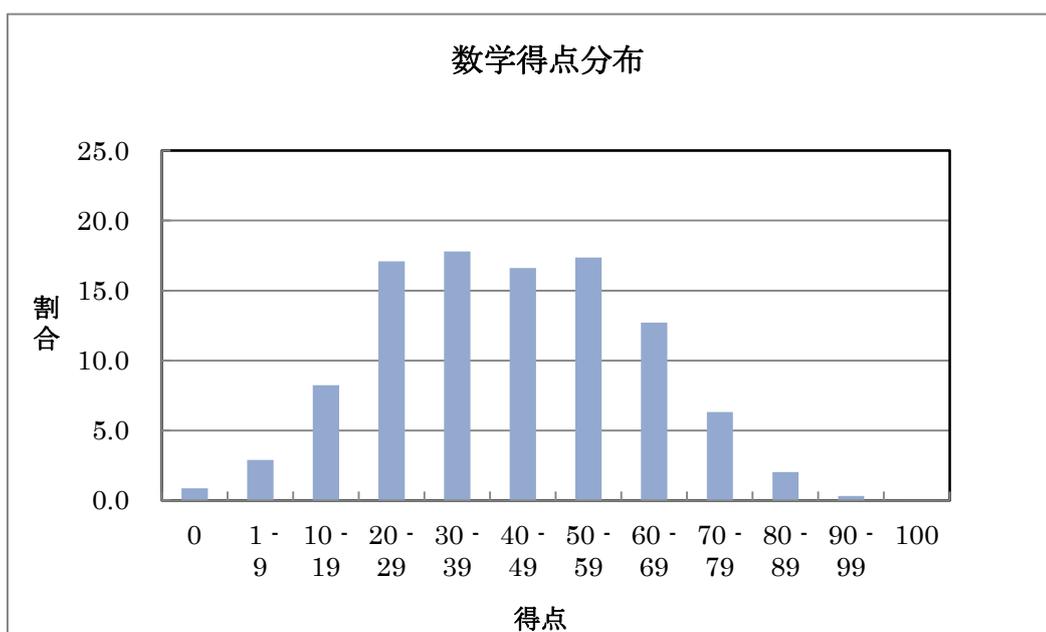
④は、関数のグラフとさいころの出た目をもとに、太郎さんと花子さんのどちらが勝ちやすいかを考える内容であったが、確率を用いて事象の起こりやすさを説明する問題の正答率が低かった。問題文から与えられた条件を正確に読み取り、数理的に考察し表現する力の育成が望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)	
①	(1)	93.8	
	(2)	90.2	
	(3)	84.7	
	(4)	80.4	
	(5)	70.0	
	(6)	60.8	
	(7)	30.4	
	(8)	47.7	
②	(1)	64.6	
	(2)	言葉	23.1
		式	15.3
	(3)	式	27.6
		説明	8.7

問題区分		正答率 (%)
③	(1)	3.3
	(2)	20.0
	(3)	12.9
	(4)	0.9
④	(1)	31.7
	(2)	6.7

年度	平均点	標準偏差
平 27 (100点満点)	43.5	18.5



平成27年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の三分野についてバランスよく出題されており、資料を活用し、自ら考察・判断し、表現する力が反映される問題であった。」「多角的・多面的に判断したり、表現したりする内容で、問題を深く理解する力を試している。教科書の基礎的な知識だけでなく、設問の意味を深く理解することが必要である。」「用語を暗記して答えるという従来の形式から、資料を活用して思考力・判断力・表現力をみようとす新形式へ脱却しようという意図が感じられた。」などの意見があった。

設問については、「知識にたよらず、資料から考察を深める設問が多くあり、総合的に考察し判断する力が求められる問題といえる。」「知識・理解を問う出題とのバランスが重要である。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、複数の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分身につけていないと考えられる。今後、資料から分かることを発表したり書いたりする活動や、議論などを通して考えを深めさせる活動をさらに充実させ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力を育成する指導が望まれる。

①は、資料やグラフなどをもとに、アジアと北海道の農業の特色等についての理解をみるとともに、農業にかかわる人々の自然環境へのはたらきかけや、食料基地としての北海道の役割について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。資料に記載されている事項を読み取り、分析し、適切に表現する問題では正答率が低く、複数の資料から適切な情報を取り出して、考察し、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、図表や絵などの資料をもとに、中世の産業や社会の様子、近世の流通や文化についての理解をみるとともに、中世から近世にかけての産業や社会の特色、流通や外国との関係について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。問題をていねいに読み取り、資料と関連させて考察し、指定された言葉を使って表現する問題や、歴史的事象の内容や目的、理由を説明する問題では正答率が低く、知識の習得だけでなく、背景や目的などをさまざまな資料を活用して多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する力を育てていく必要がある。

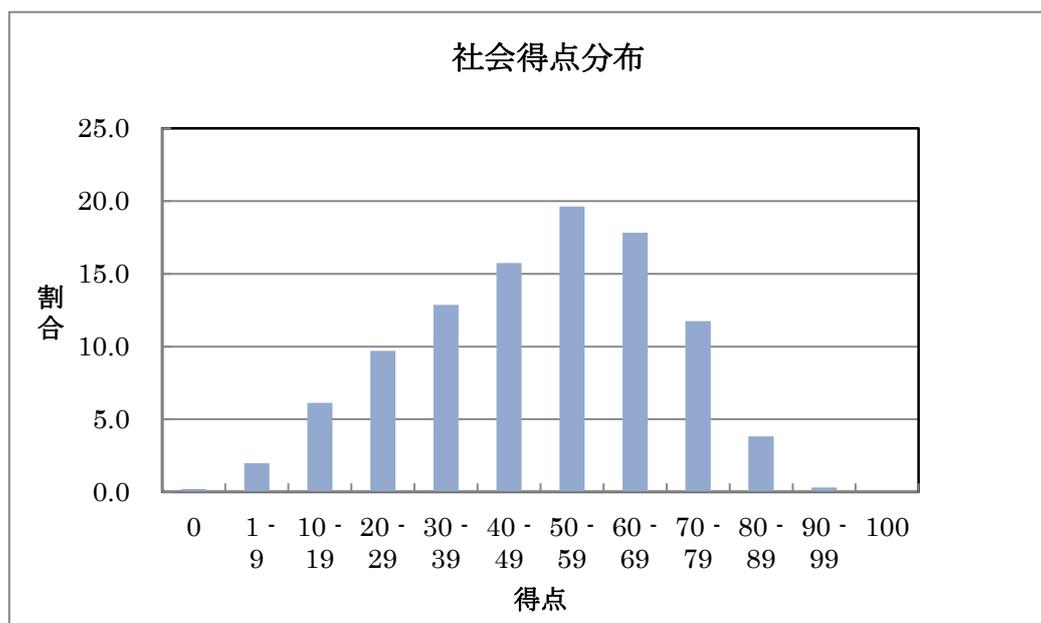
③は、グラフや身近な事例をもとに、日本の財政の役割についての理解をみるとともに、少子高齢化が日本の財政に与える影響や、合意の妥当性を判断する際の「効率」や「公正」の考え方について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。グラフを読み取り日本の財政課題を考察し、説明させる問題は正答率が低かった。現代社会の諸課題を個別に理解させるだけでなく、相互に関連させながら、社会的事象に関心をもたせ、主体的に考察させる指導が望まれる。

社 会

問題区分		正 答 率 (%)
①	1	44.8
	2	82.1
	3	66.9
	4	13.8
	5	44.2
	6	64.3
	7	15.6
②	1	60.9
	2	52.8
	3	15.5
	4	4.4
	5	13.6
	6	13.4
	7	69.6
	8	60.5

問題区分		正 答 率 (%)	
③	1	82.8	
	2	6.3	
	3	歳入	20.0
		歳出	16.2
	4	50.7	
5	19.2		

年 度	平均点	標準偏差
平 27 (100点満点)	49.3	19.6



平成27年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえた、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能を見るようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を見るようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「実験や自由研究の発表など、生徒の具体的な活動をもとに、考察を行う問題形式となっており、よく考えられている。」「言語活動を問題に取り込もうとした、新しい問題として評価できる。」「どの問いも観察、実験を重視し、実験器具の使い方をはじめ、レポートでのデータ処理や考察、ポスター作成など、科学的な力を総合的に見ることができるものであった。」などの意見があった。

設問については、「記号での解答のあとに、その理由を記述させるなど、全体的に論理的な思考力、表現力を問う良い問題であった。」「単純に知識を問う問題が少なく、読解力・まとめる力がさらに必要になった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、各分野の基礎的事項を問う問題では正答率が高く、基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、実験方法を説明したり、実験結果などを分析して解釈し、自分の考えを表現する問題では正答率が低いため、今後なお一層、言語活動の充実を意識して指導していく必要がある。加えて、実験、観察については、目的意識をもって、探究的に行い、得られたデータを分析して解釈し、適切な判断を行うような経験をさせることが重要である。また、判断にあたっては、科学的な根拠を踏まえ、論理的な思考に基づいて行うように指導する必要がある。

①では、水に溶けると電流を通す物質の名称を問う基本的な問題や食塩水と炭酸ナトリウム水溶液の性質の違いに関する選択式の問題については正答率が高い。しかし、物質A、Bが炭素を含むことを確かめる実験方法を問う問題や、物質Aが砂糖、物質Bが小麦粉であるとわかった理由を説明する記述式の問題では正答率が低い。今後は、観察、実験の際には、目的に沿った実験を計画したり、根拠を示して考察するなど、科学的に探究する能力の基礎と態度の育成が望まれる。

②では、食べる・食べられるという関係に関する問題については正答率が高く、食物連鎖についての基礎的事項についてはおおむね理解できているといえる。しかし、解答した理由を説明する問いや、実験結果について記述する問いについては正答率が低く、今後は、観察、実験の結果を分析して解釈する能力や、導き出した自らの考えを表現する能力の育成が求められる。

③では、日周運動や三日月に見える時の太陽と月の位置関係を問う基本的な問題については、比較的正答率が高い。しかし、半月が西の地平線に沈む時の地球上の観測者の位置を問う問題や、同じ時刻に見える月の位置が、日がたつにつれ西から東へ移動する理由を記述する問題では正答率が低い。今後は、観測記録や資料などを活用して考察し、自分の考えを表現することができる力の育成が望まれる。

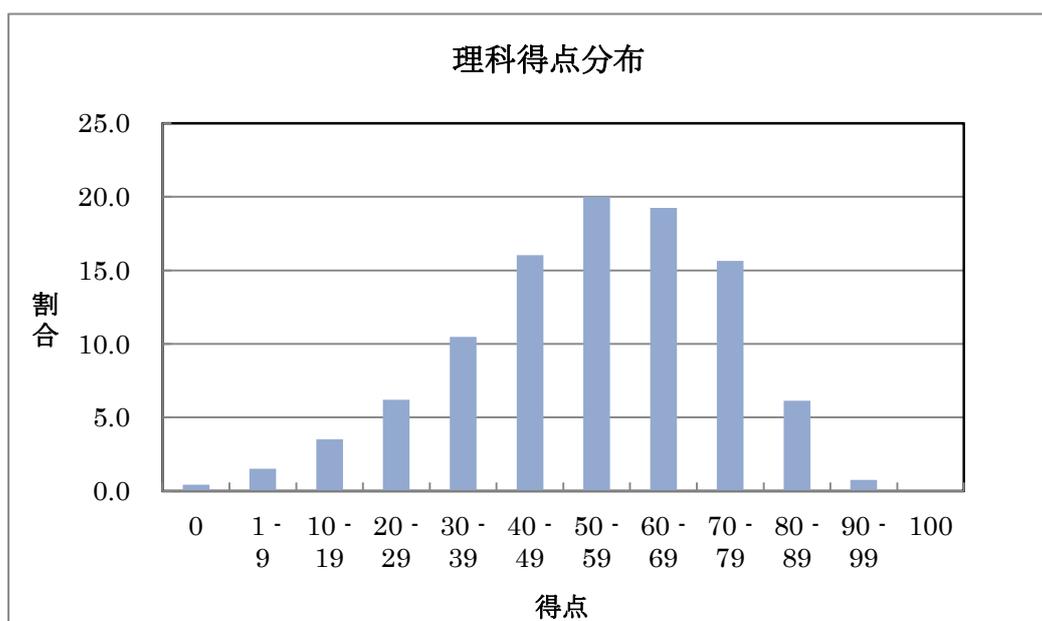
④では、コイルの動きを逆にするための操作や抵抗の値を求めるような基本的な事項を問う問題については、正答率が高い。一方、実験の回路で抵抗を使う理由や、電子てんびんの値を調べることはおもりにとはたらくどの力の大きさを測っているかを問う問題では正答率が低くなっている。今後は、実験などから得られた事実を客観的にとらえ、科学的な知識や概念を用いて合理的に判断する力の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率 (%)
1	1	51.3
	2	76.9
	3	7.8
	4	37.2
	5	68.5
2	1	43.7
	1	17.7
	2	78.8
	3	84.0
	4	70.5
	4	21.1

問題区分		正答率 (%)	
3	1	64.3	
	2	記号	31.4
		理由	10.3
	3	53.7	
	4	38.5	
5	5.3		
4	1	40.3	
	2	71.1	
	3	72.1	
	4	24.9	
	5	グラフ	48.7
理由		51.9	

年 度	平均点	標準偏差
平27 (100点満点)	53.7	19.2



平成27年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えや気持ちを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「意見を問う問題が多く含まれ、受検生に、より思考させるものになっていた。」
「文法的な要素を問いながら、表現させることに主眼を置いた問題が中心となり、今後のあるべき方向性として理解できる出題傾向であった。」
「中学校での授業の活動が反映された、良い出題である。」などの意見があった。

設問については、「自由に表現力をみる問題として今までにない試みであり、受検生も一生懸命に取り組んだ跡が見られた。」
「国際交流の観点において、自らの立場や考えを英語で表現させる意図を持った良い問題である。」などの意見があった。

CDを用いてのリスニングについては、「音声が明瞭で、はっきり話されていたので、聞きやすかった。」
「受検生の多角的なリスニング力を測定できる問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の意向を理解する力や、身近な話題についての英文を読んで大まかな流れをつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身につけている。正答率が低いのは、場面や状況に応じて感情や考えを適切に表現する問題であった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分身につけていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解について一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。今後、聞いたり読んだりした英文の内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動を一層充実させることが望まれる。

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題や、初歩的な短い会話の内容を聞き取る問題、身近な話題の会話を聞いて情報や話し手の意図を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまった英文を聞いて、状況や場面を想像しながら、聞き取った内容や理解したことを英語で適切に表現する問題では正答率が低かった。日ごろから、まとまりのある英語を聞き、その内容についてペアで話し合ったりするような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、英語による中学生の発表を素材にして、発表者の伝えたいことなどを正確に読み取る力や、発表の内容に対して自分の考えや気持ちを適切に表現する力などをみる問題である。話し手の大まかな意図を理解する問題や、会話の流れに即して基本的な語彙を用いて適切に表現する力をみる問題は、比較的高い正答率であったが、感情や考えを説明したり表現したりする問題は、正答率が低かった。日ごろから、読んだり聞いたりした内容に対して、自分の意見、感想等を述べ合う活動をより計画的、系統的に行うことが望まれる。

③は、海外に留学中の生徒の、外国の生活や文化についての会話を素材にして、会話の大まかな流れや大切な部分を読み取る力、自分の考えや気持ちを理由を添えて表現する力などをみる問題である。会話の流れに即して、基本的な語彙を用いて適切に表現できるかをみる問題や、内容に応じて適切な文構造を選択する問題では正答率が高かったが、状況や考えを英語で説明したり表現したりする問題では、正答率は低かった。英文を読んだり聞いたりして、内容についての感想や意見を述べたり、賛否やその理由を示したりする活動をより一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)	
①	その 1	1	79.8
		2	55.7
	その 2	1	70.4
		2	68.0
	その 3	1	77.5
		2	66.0
		3	72.0
	その 4	1	12.7
		2	2.7
	②	1	
2		44.0	
3		44.2	
4		43.7	
5		⑤	77.7
		⑥	52.7
6		12.8	
7		⑧	25.3
		⑨	8.0

問題区分		正答率 (%)	
1	①	61.9	
	②	47.4	
2	(1)	11.4	
	(2)	5.1	
③		3	57.2
		4	62.9
		5	31.8
		6	6.2
		7	44.0

年 度	平均点	標準偏差
平 27 (100 点満点)	48.8	25.4

